

## カロリンスカ研究所で研究活動を行って

システム自然科学研究科 大屋 恵梨子

この度、「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」の一環として、スウェーデンのカロリンスカ研究所 Biosciences and Nutrition 部門の Karl Ekwall 教授の研究室で 2 年間研究活動を行う機会を頂きました。

首都ストックホルムにあるカロリンスカ研究所は、1810 年に設立され、医学系の単科研究教育機関としては世界最大であり、ヨーロッパを代表する研究機関の一つです。研究所内にはノーベル生理学・医学賞の選考委員会があり、世界のトップレベルの研究者によるセミナーが頻繁に行われています。また、各国から多彩な研究者が集う国際色豊かな環境であり、多くの共同研究が行われています。



カロリンスカ研究所(Flemingsberg)



研究室メンバー(右端が Ekwall 教授、中央が報告者)

Ekwall 教授の研究室は、エピジェネティクスを柱とし、酵母を用いた基礎研究から臨床検体を用いた応用研究まで幅広く、遺伝学や生化学的手法を駆使し、多角的なアプローチで研究を行っています。私は、細胞の分化や個体の発生に伴う遺伝子発現制御や染色体の機能維持に関わる、高度に凝縮したクロマチン構造に着目し、酵母を用いてその分子機構を解明すべく解析を行いました。その研究を遂行するにあたり、多くの共同研究者との出会いがあり、研究のネットワークを広げながら、新しい知識や手法を身につけることが出来ました。また、多様な分野の科学に触れ、多くの研究者と議論ができたことは貴重な経験となりました。今後もこの経験を活かし、多くの研究者と連携を図りながら、生命の謎を紐解くべく精進して参りたいと思います。

末筆ながら、今回の貴重な機会を与えて頂いた、本プログラムの担当研究者の先生方、ご支援頂いた名古屋市立大学の関係者の皆様、並びに受け入れて頂いた Ekwall 教授をはじめとしたカロリンスカ研究所の関係者の皆様に謹んで御礼申し上げます。